

観察した鳥類チェックリスト (分類表記は鳥類目録第8版に従う)

★カモ目	★ツル目	★ハヤブサ目	・ヒタキ科
・カモ科	☐ クイナ	・ハヤブサ科	☐ ジョウビタキ
☐ オカヨシガモ	☐ ヒクイナ	☐ チョウゲンボウ	・スズメ科
☐ ヨシガモ	☐ バン	☐ ハヤブサ	☐ スズメ
☐ ヒドリガモ	☐ オオバン	★スズメ目	・セキレイ科
☐ マガモ	★チドリ目	・モズ科	☐ キセキレイ
☐ カルガモ	・チドリ科	☐ モズ	☐ ハクセキレイ
☐ ハシビロガモ	☐ タゲリ	・カラス科	☐ セグロセキレイ
☐ オナガガモ	☐ ムナグロ	☐ カケス	☐ タヒバリ
☐ コガモ	☐ コチドリ	☐ オナガ	・アトリ科
☐ ホシハジロ	・セイタカシギ科	☐ ハシボソガラス	☐ カワラヒワ
☐ キンクロハジロ	☐ セイタカシギ	☐ ハシブトガラス	☐ アトリ
☐ ミコアイサ	・シギ科	・シジュウカラ科	☐ ウソ
★キジ目	☐ タシギ	☐ ヤマガラ	☐ シメ
・キジ科	☐ イソシギ	☐ シジュウカラ	☐ コイカル
☐ キジ	・タマシギ科	・ヒバリ科	・ホオジロ科
★カイツブリ目	☐ タマシギ	☐ ヒバリ	☐ ホオジロ
・カイツブリ科	・カモメ科	ツバメ科	☐ カシラダカ
☐ カイツブリ	☐ ユリカモメ	☐ ツバメ	☐ アオジ
☐ カンムリカイツブリ	☐ セグロカモメ	・ヒヨドリ科	☐ オオジュリン
☐ ミミカイツブリ	☐ オオセグロカモメ	☐ ヒヨドリ	☐
☐ ハジロカイツブリ	★タカ目	・ウグイス科	☐
★ハト目	・ミサゴ科	☐ ウグイス	☐
・ハト科	☐ ミサゴ	・エナガ科	☐
☐ キジバト	・タカ科	☐ エナガ	☐
★カツオドリ目	☐ トビ	・メジロ科	(外来種や家禽)
☐ カワウ	☐ チュウヒ	☐ メジロ	☐ コブハクチョウ
★ペリカン目	☐ ツミ	・ヨシキリ科	☐ バリケン
・サギ科	☐ ハイタカ	☐ オオヨシキリ	☐ ガチョウ
☐ ヨシゴイ	☐ オオタカ	・セッカ科	☐ アヒル
☐ ゴイサギ	☐ ノスリ	☐ セッカ	☐ ドバト
☐ アマサギ	★ブッポウソウ目	・ムクドリ科	
☐ アオサギ	・カワセミ科	☐ ムクドリ	
☐ ダイサギ	☐ カワセミ	・ツグミ科	
☐ チュウサギ	★キツツキ目	☐ シロハラ	
☐ コサギ	・キツツキ科	☐ アカハラ	
	☐ コゲラ	☐ ツグミ	

このパンフレット持参で
てがたん参加者の方は
当日、博物館入館無料です

【9月のテーマ】

生きるための毒 part2

案内人：石原直子・小泉伸夫（鳥の博物館 市民スタッフ）



▲ 足の関節からカンタリジン^{かん せつ}を成分とする毒^{せい ぶん}の体液を出すマメハンミョウ。
毒液が皮膚^{ひ ふ}に付くと水ぶくれになり、数匹分の体内接種^{すう ひき ぶん}で死^{いた}に至る。

今月のテーマは毒についてです。

2024年7月のてがたん「生きるための毒 part1」では、植物から脊椎^{せき つい}動物のヘビに至るまで、幅広い生き物がもつ毒について取り上げました。

今回のてがたんでは、主に昆虫や植物がもつ毒^{こんちゅう}に注目^{ちゅうもく}し、毒の成分^{せい ぶん}や作用^さ、毒をもつことのメリットについて、より詳しく紹介します。

2025年9月13日（土）

車や自転車に注意しましょう。水田や私有地ではマナーを守って観察しましょう。

「身の周りの毒のある植物・昆虫」 ※ 当日見たものをチェックしましょう。

☐ ヤブガラシ (ブドウ科)

わかめ くき さき しょうよう にょうろ けつ せき ひ お
若芽や茎先が食用。尿路結石を引き起こす
シュウ酸が含まれ、水による処理が必要。



☐ ハゼノキ (ウルシ科)

か ふん い かい ふ ぶん じゅ
花粉以外の部分にウルシオールを含み、樹
液に触れるとかぶれを引き起こす。



☐ ケキツネノボタン (キンポウゲ科)

ひ ふ
葉や茎にプロトアネモンが含まれ、皮膚
のただれや、胃腸炎・血尿を引き起こす。



☐ フルナスビ (ナス科)

ず つう おう と
植物全体にソラニンを含む。頭痛や嘔吐の
ほか、呼吸不全で死亡する場合もある。



☐ ヨウシュヤマゴボウ (ヤマゴボウ科)

か じつ ね ふく つう
果実と根にサポニンを含む。食べると腹痛
や下痢を引き起こし、最悪の場合死亡する。



☐ オオスズメバチ (スズメバチ科)

どく えき けつ あつ こう か
毒液のセロトニンやキニンなどが血圧降下
や痛みを引き起こし、最悪の場合死亡する。



☐ ジャコウアゲハ (アゲハチョウ科)

ようちゅう
幼虫がウマノスズクサを食べてアリストロ
キア酸を蓄積する。腎臓病を引き起こす。



☐ アオバアリガタハネカクシ (ハネカクシ科)

たい えき ふ
ペデリンを含む体液が皮膚に付くとミミズ
腫れになる。知らぬ間に潰さないよう注意。



「タンニンをめぐる生き物同士の駆け引き」

① タンニンを含む植物

ちや ば いっ しゅ
ドングリやカキ、茶葉には、ポリフェノールの一種であるタンニンが含まれてい
ます。タンニンは水に溶けやすい状態で存在し、そのまま食べると口の中のタンパ
ク質と結合して舌の組織を収縮させます。この収縮を「渋み」と認識しています。

ぬ
タンニンの「渋み」を抜く方法として、①お湯で溶かし出す方法、②アルコール
や炭酸ガス、乾燥によってタンニンを溶けにくい状態に変える方法があります。



▲ マテバシイの実



▲ カキの実

② 食べ物として利用する生き物

せつ しゅ い さん はん のう い せき い えん
タンニンを含む植物を接種しすぎると、胃酸との反応で胃石ができるほか、胃炎
や腸閉塞を引き起こします。これは、植物が昆虫などに葉や実を食べられないよう
にする防御機構の一つとして知られています。

ふゆ こ しょうりよう り よう
ドングリは冬を越すための食糧として多くの生き物に利用されています。キツツ
キやカケス、リスなどは貯蓄をして少しずつ食べることでタンニンによる影響を抑
えています。食べ残ったドングリは次の春に芽を出して新しい木へと成長します。

たい さく く ふ
タンニンへの対策した生き物もいます。アカネズミは、だ液と腸内細菌で無毒化
しています。ゾウムシやチョッキリは、ドングリが熟す前に卵を産みつけて地面に
落とすことで、幼虫が育つ実の中でタンニンが増えないようにしています。



▲ ドングリの貯食が知られるヤマガラ



▲ ゾウムシが卵を産みつけたウバメガシの実